倭王権と住吉―古墳時代における住吉社創設―

大阪市立大学　岸本直文

０．住吉の位置（図２）

・難波津／「住吉津」（磯歯津）／榎津／さかい津／石津→大阪湾岸の港の確保は早いのでは

・堺市下田遺跡（石津川河口部）　３世紀後半に王権による把握強化

１．前提としての倭国（図１）

・1 世紀に畿内が統合されヤマト国（邪馬台）形成→ 2 世紀初頭に西日本諸地域が連携し倭国成立（倭国王帥升）＝ヤマト国が中心となる（纒向遺跡）（倭国王＝ヤマト国王）→ 2 世紀末に倭国乱（倭国内のリーダーシップをめぐる争いか（ヤマト国優位に対する反動））→ 201 年休戦合意＝卑弥呼共立（位 201 年～ 247 年頃）＝倭国王の確立（地域の利害を超越した倭国王位創出＝初代倭国王）＝倭国確立（連合関係）→ 239 年中国魏へ朝貢（親魏倭王）→箸墓古墳（初代倭国王墓）造営→卑弥呼埋葬→ 3 世紀後半に倭国は東日本へ拡大

・3 世紀から 4 世紀前半まで倭王権のミヤコは桜井市纒向遺跡／王墓はオオヤマト古墳群

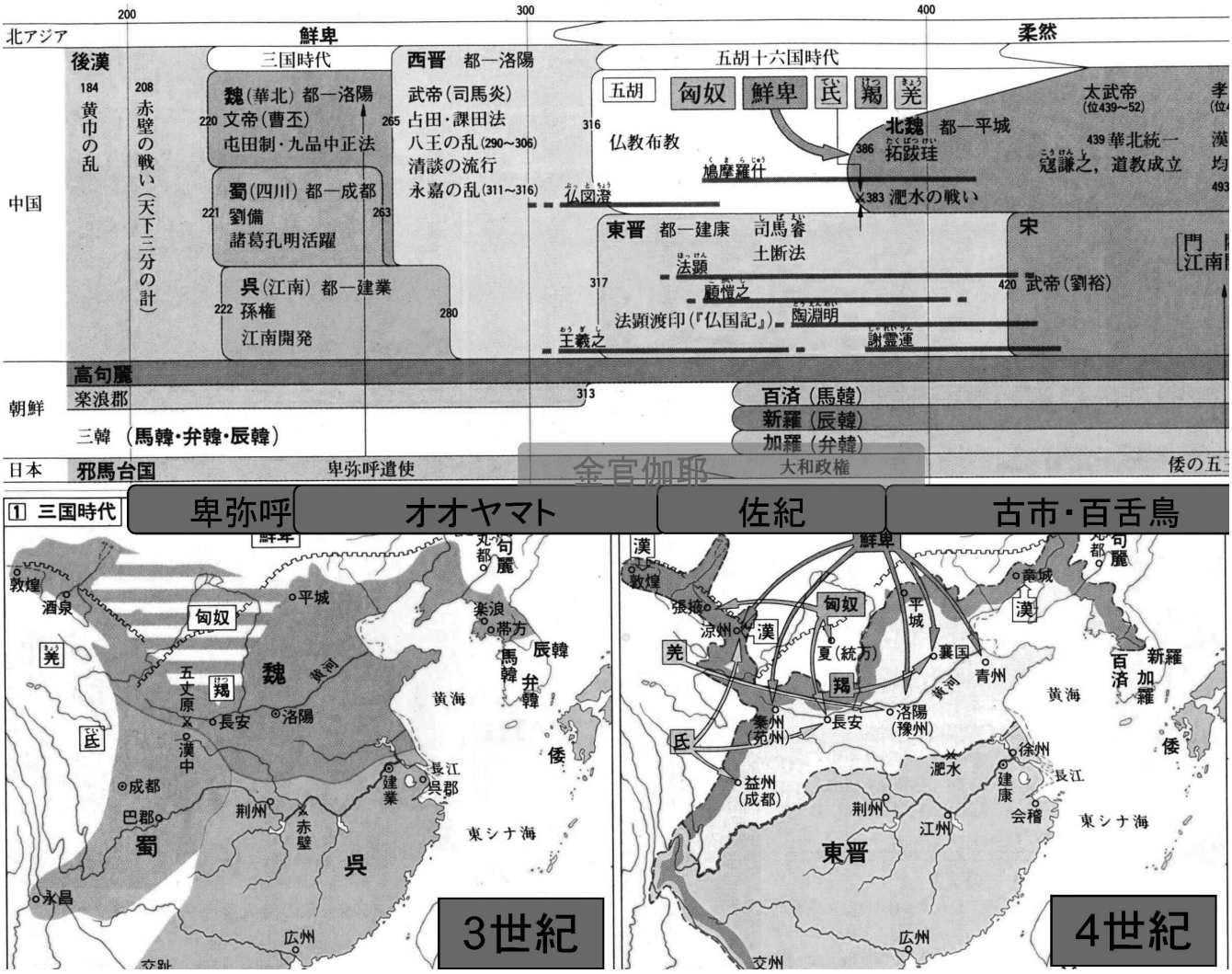

図１　東アジアの３世紀・４世紀と倭国王墓の移動

図２　大阪湾岸の港津と住吉社

※列島の大・中・小首長が急速に倭国に加わり王墓と同じ前方後円墳を築造

・3 世紀末に韓国東南部伽耶地域（3 世紀には狗邪韓国）に金官国成立（大成洞古墳群）

倭国は必需材である鉄を伽耶に依存

※北部九州と狗邪韓国の交易→金官国と倭国の国家間交易→畿内の倭人が半島へ

・318 年の崇神没後に倭王権はミヤコを奈良市佐紀遺跡（平城宮下層）へ遷都→佐紀古墳群（～4 世紀後葉）（図３）

図３　佐紀古墳群と４世紀後半の王墓

２. 佐紀政権下における地域の古墳の再編（4 世紀第２四半期から後半）

・オオヤマト段階の各地の多くの首長系譜はほぼ衰退→新興勢力の起用（重要な交通路を重視）（図５）

※交通の要衝を抑えるように限定的な特定首長のみ大型前方後円墳を築造→軍事的協力を軸とする再編

３．４世紀前半には畿内の倭人の渡海はじまる

・茨木市紫金山古墳（4 世紀第２四半期）　伽耶の鉄製甲冑・筒形銅器（ヤリ柄の石突）・又鍬（図６）

・金官国王墓である大成洞古墳群に倭と共通する副葬品（筒形銅器・巴形銅器・鏃形石製品など）（図７）

４．４世紀中頃以降の王権による茅渟海（大阪湾）岸の掌握

・明石海峡に面して五色塚古墳 194 m（佐紀陵山型）出現（図４）

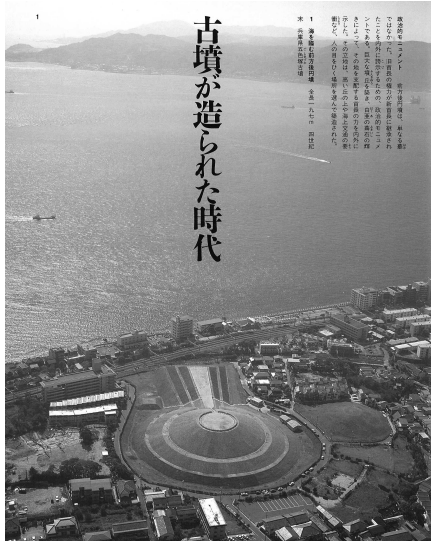

図４　明石海峡と五色塚古墳

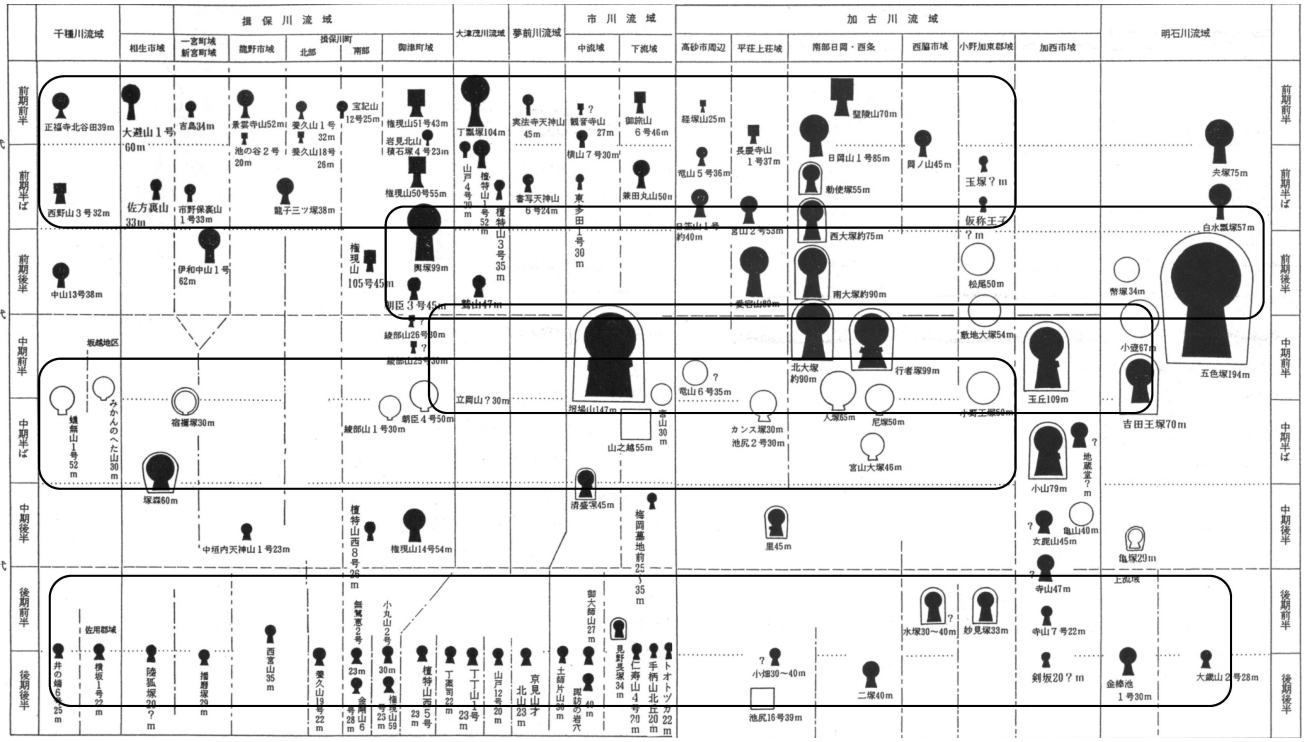

図５　播磨地域の古墳の盛衰に見る古墳時代の基本動向（岸本道昭図）

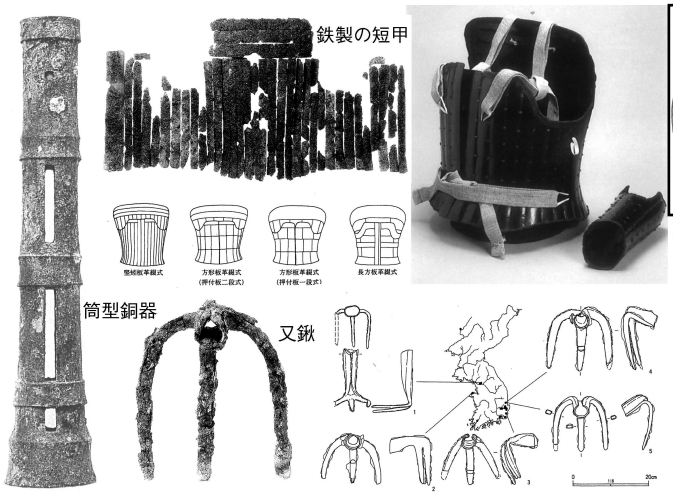

図６　紫金山古墳の伽耶系器物

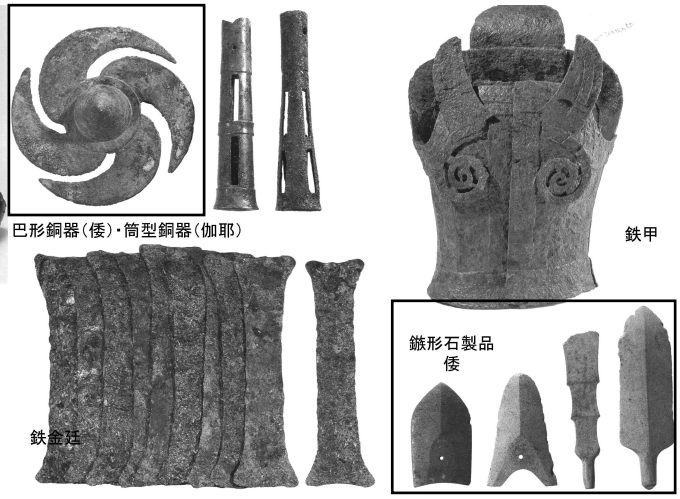

図７　大成洞古墳群の副葬品と倭系器物

図８　４世紀後半に出現する和泉の前方後円墳

・100 年間古墳のなかった和泉→４世紀後半に前期古墳６単位出現（図８）

①百舌鳥・長山古墳／乳の岡古墳 155 m、②信太・黄金塚古墳 97 m、③和泉・丸笠山古墳 100 m、④山直・摩湯山古墳 200 m、⑤久米田貝吹山古墳 130 m（佐紀陵山型）、⑥貝塚・地蔵堂丸山古墳 70 m

※同時に丹後半島の掌握　加悦・蛭子山古墳 145 m　竹野川河口部・神明山古墳 190 m　福田川河口部・網野銚子山古墳 200 m（佐紀陵山型）（図９）

５．４世紀中頃以降の半島派兵

・大阪湾岸と丹後半島の重視→瀬戸内と日本海ルートの海上交通確保→交易の活発化だけだろうか

・倭・韓で共通する器物が武器・武具／４世紀後半の実用的な武器・武具への革新／和泉市寺田遺跡の鍛冶工房（垂仁 39 年 五十瓊敷命が菟砥で鉄剣 1000

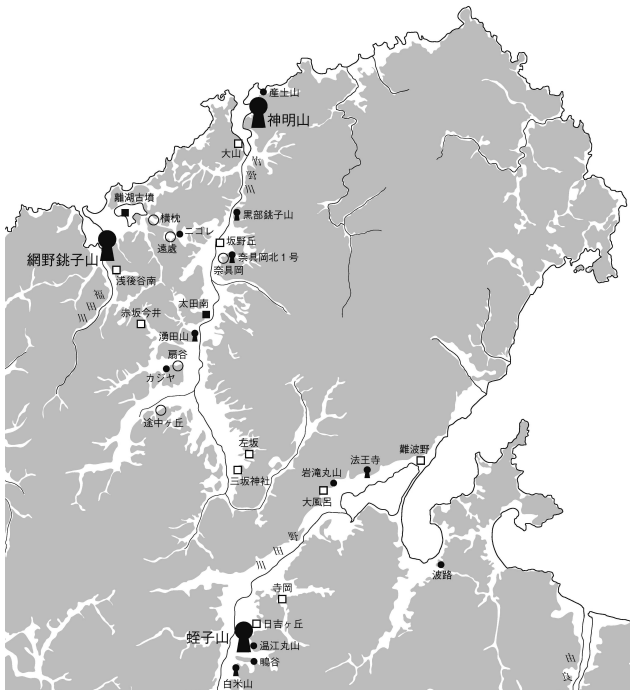

図９　４世紀後半に出現する丹後の前方後円墳

図 10　出石・袴狭遺跡の船団線刻

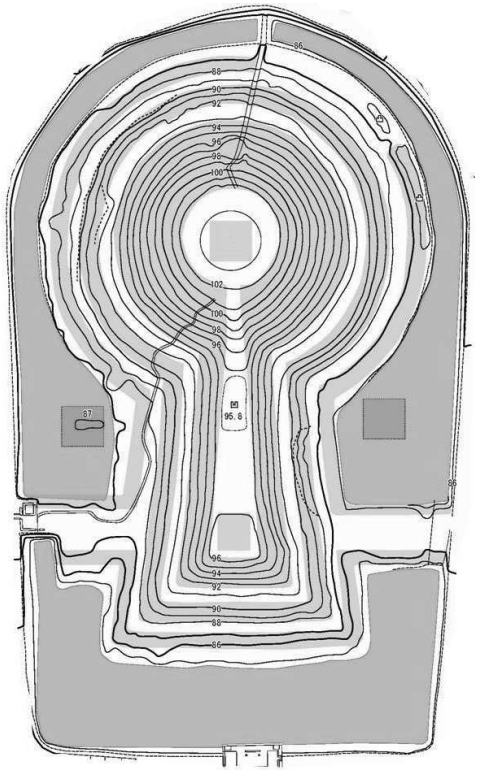

図 11　佐紀陵山古墳

製造）／出石・袴狭遺跡の船団線刻画（図 10）→軍船か

→佐紀陵山古墳（図 11）の倭国王の時期（4 世紀中頃～第 3 四半期）に茅渟海・丹後半島から倭人派兵（図 13・14）

※金官国の伽耶における安全保障／倭国の鉄素材確保という互いの利害→要請にもとづく傭兵か

→ 369 年　百済との軍事同盟（石上神宮の七支刀）→倭軍増強→対高句麗戦へ→ 663 年白村江の戦いまで

※沖の島祭祀は 4 世紀前半にさかのぼるだろう

おわりに

・4 世紀後半の半島派兵（諸豪族に依存）という国家的課題のため、

・王権は瀬戸内ルートでの派兵前線基地となる河内を直接把握（王族ホムダワケを送り込む）

・大阪湾岸の港津の整備→住吉から堺にかけての地域（メインが住吉）

・海上交通に長けた和泉の諸勢力は大型船の建造および航海を担う（葛城氏―紀氏―和泉在地勢力）

→住吉社は出航地における航海安全祈願の祭祀（←住吉神社の博多を含む瀬戸内一帯の分布）

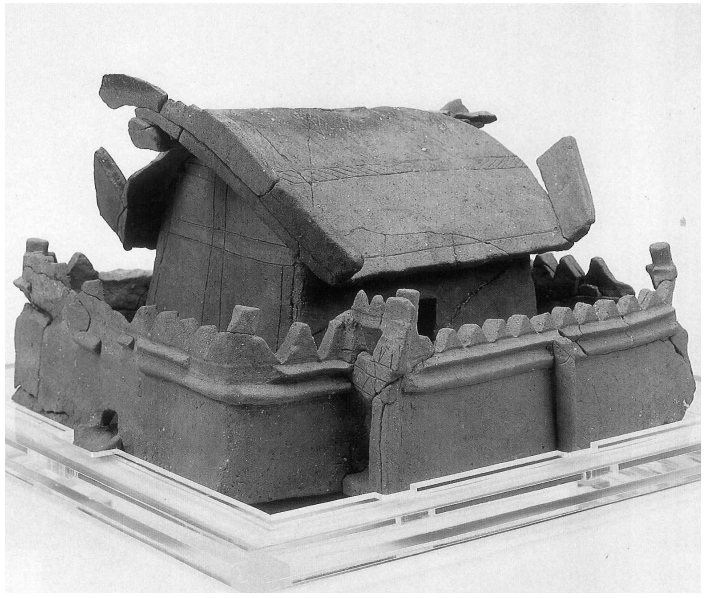

図 12　住吉大社第四本宮と八尾市心合寺山古墳の家形埴輪

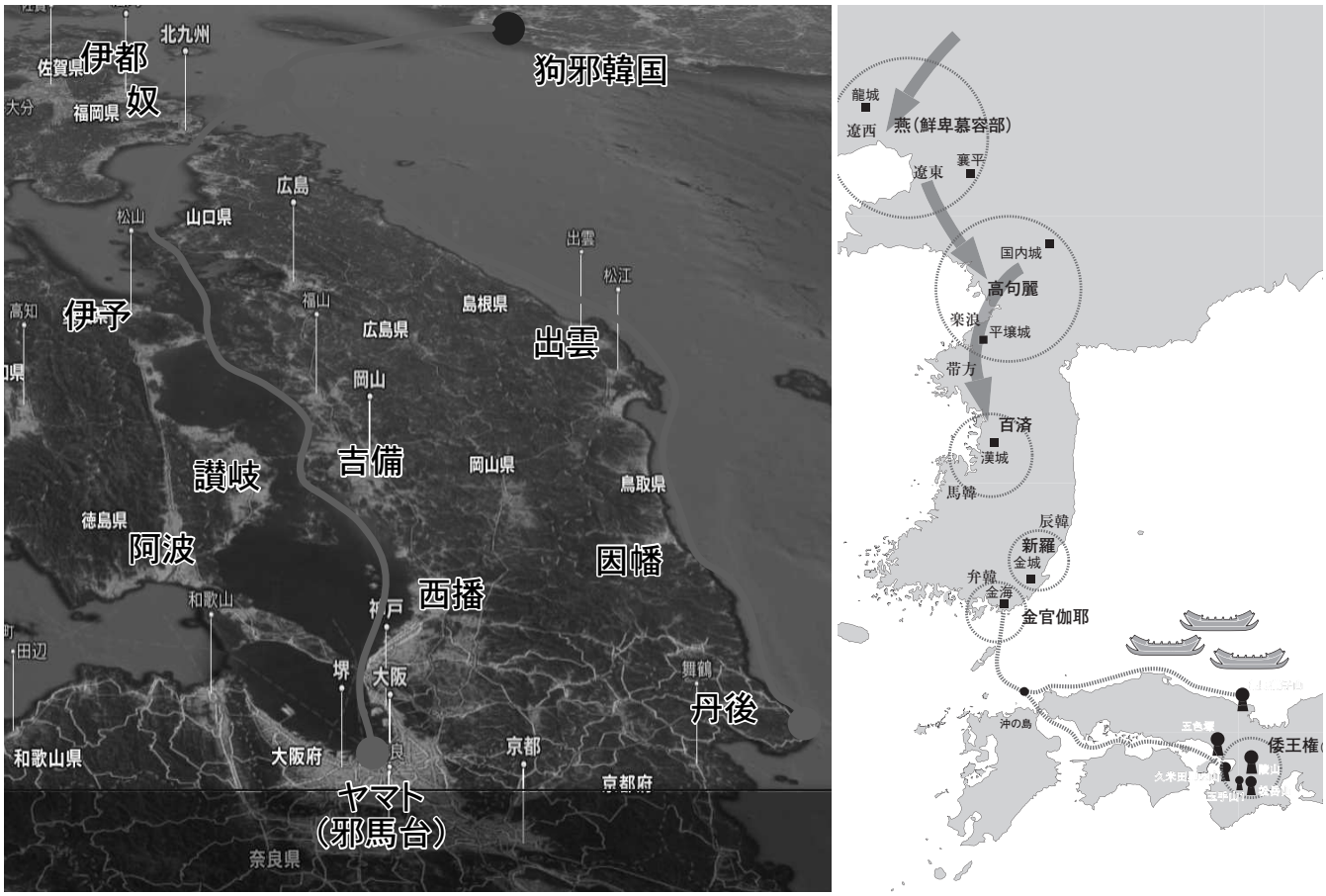

図 13　4 世紀における半島派兵

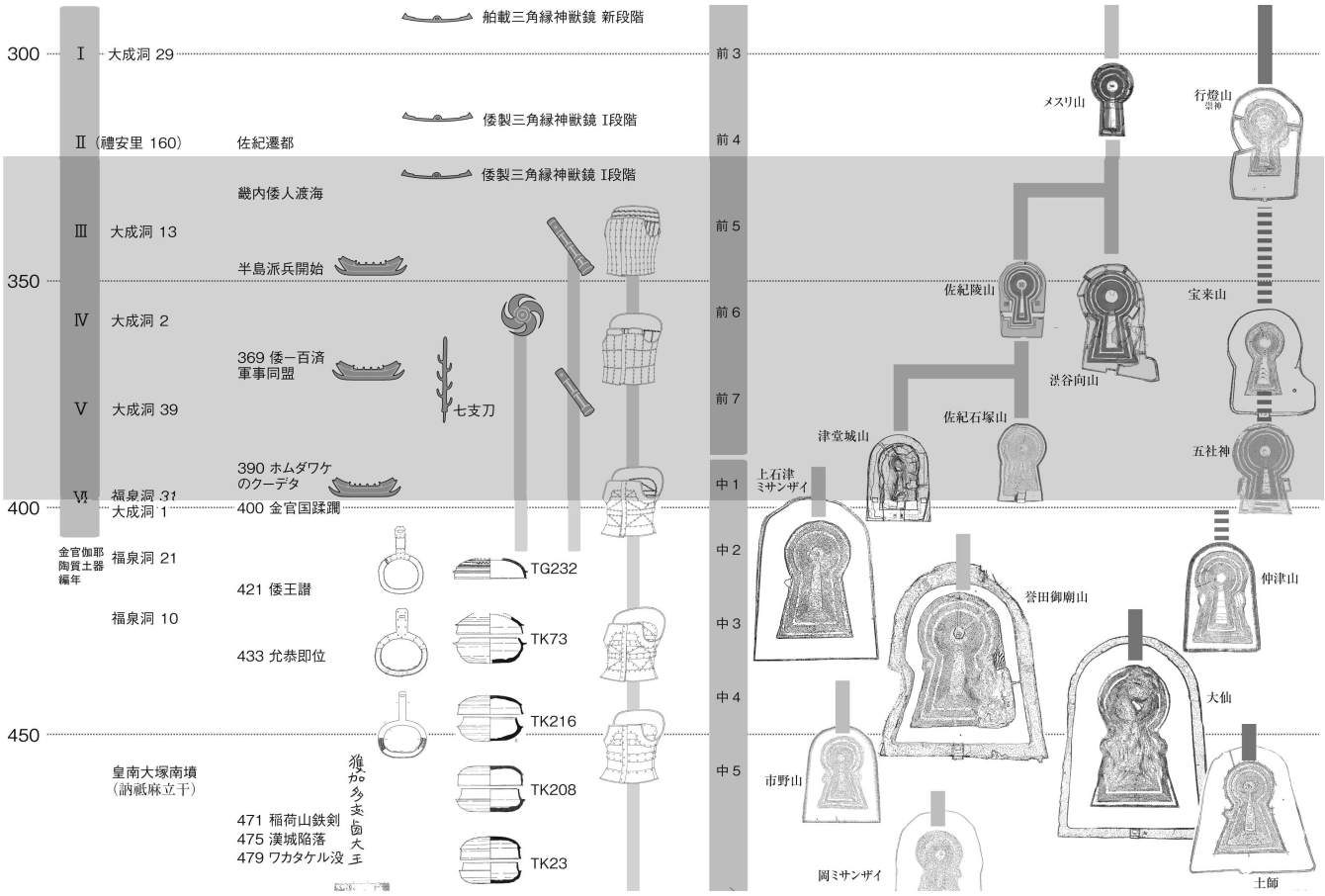

図 14　佐紀古墳群の時代